

Economic Indicators

発表日: 2018年10月19日(金)

消費者物価指数(全国・2018年9月)

～コアコアが伸び悩み。当面1%程度の推移が続く見込み～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

主席エコノミスト 新家 義貴 (TEL: 03-5221-4528)

(単位: %)

		全国					東京都区部				
		総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	石油製品	総合	生鮮除く総合	食料(酒類除く)及びエネルギー除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	石油製品
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比
17	1月	0.4	0.1	0.1	0.2	9.2	0.1	▲ 0.3	0.0	0.1	11.7
	2月	0.3	0.2	▲ 0.1	0.1	13.2	▲ 0.3	▲ 0.3	▲ 0.1	0.0	14.4
	3月	0.2	0.2	▲ 0.3	▲ 0.1	16.2	▲ 0.4	▲ 0.4	▲ 0.4	▲ 0.2	19.7
	4月	0.4	0.3	▲ 0.3	▲ 0.0	12.8	▲ 0.1	▲ 0.1	▲ 0.4	▲ 0.1	14.3
	5月	0.4	0.4	▲ 0.2	0.0	11.2	0.1	0.1	▲ 0.2	0.0	11.6
	6月	0.4	0.4	▲ 0.2	0.0	6.6	0.1	0.0	▲ 0.4	▲ 0.2	7.1
	7月	0.4	0.5	▲ 0.1	0.1	6.6	0.2	0.2	▲ 0.3	▲ 0.1	8.1
	8月	0.7	0.7	0.0	0.2	7.6	0.5	0.4	▲ 0.1	0.0	9.6
	9月	0.7	0.7	0.0	0.2	7.2	0.5	0.5	▲ 0.1	0.0	8.3
	10月	0.2	0.8	0.0	0.2	9.4	▲ 0.1	0.6	0.0	0.1	10.6
	11月	0.6	0.9	0.1	0.3	10.1	0.3	0.6	0.1	0.2	11.4
	12月	1.0	0.9	0.1	0.3	9.0	1.0	0.8	0.2	0.4	9.9
18	1月	1.4	0.9	0.1	0.4	7.3	1.3	0.7	0.3	0.4	8.8
	2月	1.5	1.0	0.3	0.5	9.2	1.4	0.9	0.4	0.5	10.7
	3月	1.1	0.9	0.3	0.5	7.0	1.0	0.8	0.4	0.5	7.6
	4月	0.6	0.7	0.1	0.4	7.0	0.5	0.6	0.3	0.3	7.2
	5月	0.7	0.7	0.1	0.3	9.1	0.4	0.5	0.1	0.2	11.0
	6月	0.7	0.8	0.0	0.2	13.6	0.6	0.7	0.3	0.4	15.7
	7月	0.9	0.8	0.0	0.3	14.3	0.9	0.8	0.4	0.5	15.7
	8月	1.3	0.9	0.2	0.4	13.9	1.2	0.9	0.5	0.6	15.4
	9月	1.2	1.0	0.1	0.4	14.8	1.3	1.0	0.5	0.7	16.3

(出所)総務省統計局「消費者物価指数」

○2月以来の1%乗せだが、内容は物足りない

総務省から発表された18年9月の全国消費者物価指数(生鮮食品除く)は前年比+1.0%と、上昇率が前月から0.1%Pt拡大した(市場予想: +1.0%)。+1%乗せは18年2月以来のことになる。もっとも下二桁までみると、8月は前年比+0.93%、9月が+0.95%であり、前月からほとんど変化はない。また、上昇に寄与したのはエネルギー価格(前年比寄与度: 8月+0.58%Pt → 9月+0.62%Pt)と生鮮除く食料(前年比寄与度: 8月+0.21%Pt → 9月+0.24%Pt)であり、食料及びエネルギーを除く総合(米国型コア)は前年比+0.1%と、前月(+0.2%)から伸びが鈍化、除く生鮮食品・エネルギー(日銀版コアコア)も前年比+0.4%と前月と同じ伸びにとどまっている。先に公表されていた9月の東京都区部では米国型コアが8月と同じ伸び、日銀版コアコアが8月から伸び率拡大となっていたことと比べると、コアコア部分がやや弱めの印象を受ける。依然としてエネルギー価格に牽引された形となっており、コアコア主導の物価上昇には未だかなりの距離がある。



○コアコアは伸び悩み

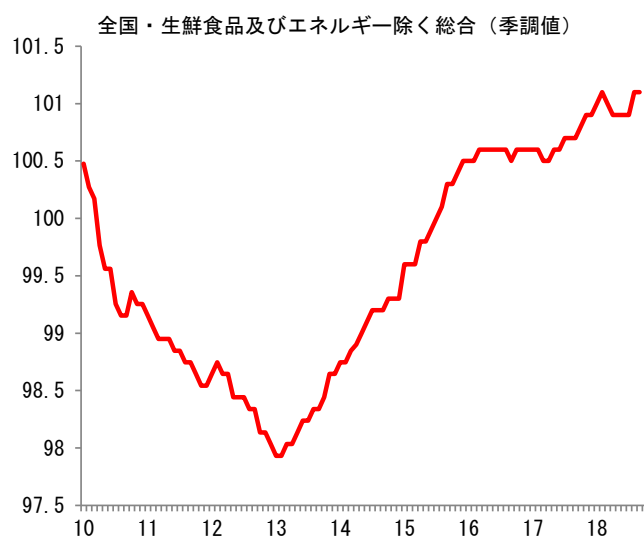
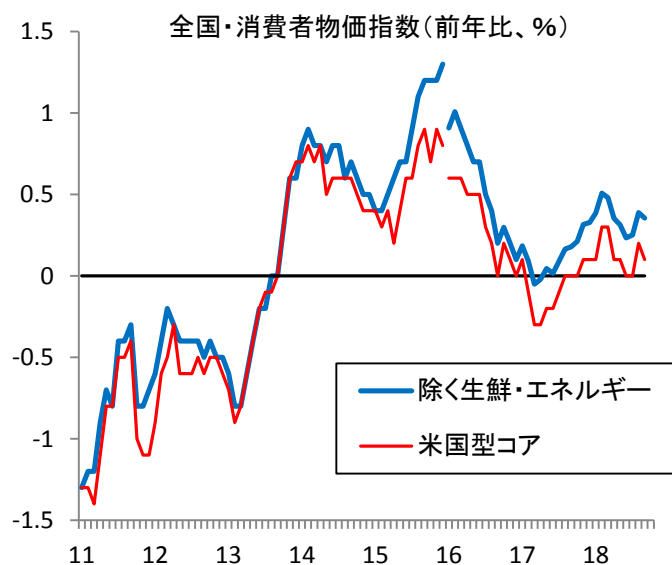
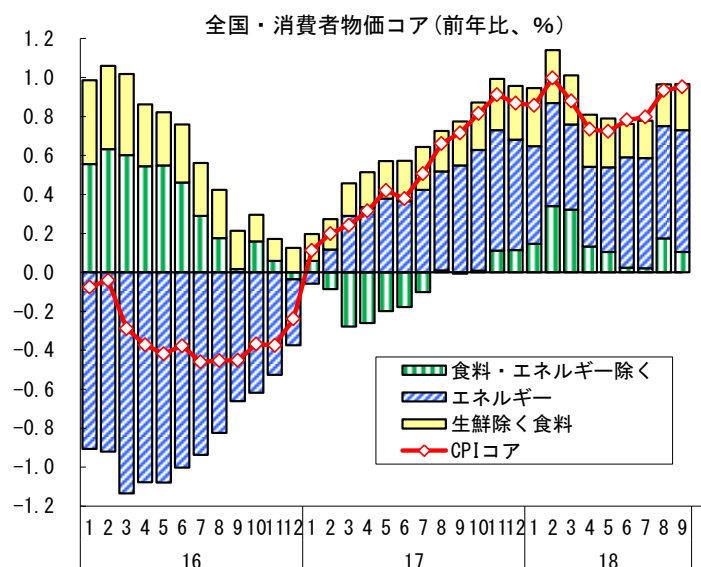
エネルギー価格は前年比+8.1%と、前月の+7.4%から伸びが高まった（前年比寄与度：8月+0.58%Pt → 9月+0.62%Pt）。原油等の燃料価格上昇の影響を受けて、ガソリン等の石油製品、電気・ガス代とも前月から上昇率が拡大している。先行きもエネルギー価格の高止まりが続きそうで、CPIを支える要因になるだろう。また、食料品価格（生鮮除く）も前年比+1.0%と前月から上昇率が拡大した。食料品は18年に入ってから6月まで緩やかに鈍化していたが、ここ3ヶ月は再び上向いている。

一方、エネルギーや食料を除いた部分は今月弱めで、米国型コアは前年比+0.1%と、前月（+0.2%）から上昇率がやや縮小している。8月に一時的に急上昇していた宿泊料が伸びを大きく鈍化させたことが響いている（前年比寄与度：8月+0.13%Pt → 9月+0.01%Pt）。また、日銀版コアコアは前年比+0.4%と前月から伸びは変わらなかった（下二桁では8月+0.39% → 9月+0.36%）。先に公表されていた東京都区部では、宿泊料の鈍化を家賃や被服及び履物の上昇が補うことで日銀版コアコアが改善する形になっていたが、全国では家賃、被服及び履物とも目立った上振れはみられず、都区部対比弱めの結果となっている。このところ、東京都区部でコアコアが上振れる一方で、全国では伸び悩むという動きがよくみられる。

米国型コア、日銀版コアコアとも、春先にみられた伸びの鈍化こそ止まっているが、上昇率が明確に拡大していく状況にもなっておらず、基本的にはゼロ%台前半での低空飛行を続けている。個人消費に力強さが欠けること等を背景として、値上げに対する企業の慎重姿勢が引き続き根強いことを考えると、コアコアの先行きについて強気になることはできない。「エネルギー価格の高止まり+エネルギー以外の伸び悩み」という構図に変化はみられていないと考えて良いだろう。

○当面、1%程度の推移が続くと予想

CPIコアは前年比+1.0%と18年2月以来の1%台に乗せており、伸び率も5月の+0.7%を底に緩やかに拡大しているのだが、このままCPIコアの上昇率が拡大していく可能性は低いとみている。エネルギー価格のプラス寄与は高止まりが予想され、引き続きCPIコアの上昇を支える一方、エネルギー以外の部分については前述のとおり改善が鈍い状況であり、先行きも目だって伸びを高めるには至らないだろう。当面、CPIコアは前年比で+1.0%程度の推移が続くと予想している。



（出所）総務省統計局「消費者物価指数」

（注）消費税率引き上げの影響は除いている

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。